

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	市の考え方	修正の有無	第4期流山市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)ストップ温暖化！流山プラン 修正案
1-1	本編 p.26- p.27	重点施策④ 廃棄物の発生抑制 と資源循環	<p>明らかにプラスチックだがプラマークが無いために「燃やさないゴミ」とする(例えば玩具、文具、ハンガーなど)は、何故「燃やさないゴミ」なのか理由が分かりません。燃やさないことでどのようなサイクルになるのか、「燃やさないゴミ」の行く末(何に生まれ変わるのか)も分かりません。どのように分別してよいか知識が無いために、燃やさなくて良いプラスチックを燃やすことに繋がったり、不法投棄で泥まみれになり燃やさざるを得ないプラスチック製品が生まれてしまうと思います。市民が知識を得ることを施策に入れ、実際に広報などで発信することで、焼却されるプラスチックの量が減るのではないのでしょうか。</p> <p>焼却されるプラスチックがどれくらいあるか月間で示していただきたいです。また、何故リサイクルされず焼却されるのかをより広く周知いただくと、市民の意識が高まると思います。</p> <p>可能であれば、例えば、鹿児島県大崎町のような細かいゴミの分別を、人が多く集まる駅周辺で展開できると、市民の意識の高まりを助けるのではないかと思います。</p>	<p>・プラスチックごみを含めたごみの分別については、本計画とは別に市で定めた「一般廃棄物処理実施計画」に基づき行っています。</p> <p>その分別において、「容器包装プラスチック」で分別・収集されたごみについては、容器包装リサイクル法に基づき、施設で選別後容器包装プラスチックリサイクル協会でリサイクルしていますが、対象外となる製品プラスチック(主にプラマークのない製品)については、「燃やさないごみ」での分別・収集となります。</p> <p>そのため、「容器包装プラスチック」と「燃やさないごみ」の分別について、市ホームページや広報ながれやまのほか、ごみ出前講座や、ごみ分別促進アプリ「さんあ〜る」などを通じて分かりやすく周知することが効果的であると考えています。</p> <p>・燃やさないごみの処理については、まず破碎し磁選機やふるい選別機などを用いて鉄やアルミを選別し、再利用できる物はできるだけ再利用へまわしていますが、再利用に馴染まないものは最終処分場で埋め立て処分することとなり、最終処分量を減らすことで処分場周辺の環境負荷の軽減を図るため、やむを得ず焼却処理し減容化を行っています。</p> <p>・市では、ごみの焼却量と、月に1回実施している可燃ごみの組成分析の結果を月ごとに市ホームページで公開しており、組成分析にはプラスチック類や布類のほか、紙類、厨芥類、草木類、ゴム・皮革類、金属類、ガラス類、セトモノ・石・砂類、その他の割合を掲載しています。今後は、あくまでも推計値にはなりますが、焼却されるプラスチック類の月ごとの重量を、組成分析の割合に基づき、市ホームページに公表してまいります。</p> <p>・ごみの分別方法は各市町村の実情に即して定められています。</p> <p>流山市では、まず現状のごみ分別の周知・徹底を行うことが重要であると考えています。</p>	無	
1-2	資料編 p.21- p.25	4.削減量予測の積上げ方法と目標値の設定方法	<p>年間の転入数を観ますと2,000人、それに対して高木の植栽は700本というのは、妥当な数なのでしょうか。人間1人が排出する年間のCO₂排出量を考えると、年間700本という数は少ないと思います。流山市内は今なお、雑木林を伐採し住宅が立ち、人口が増えています。早急に植栽の数を増やす必要があると考えます。資料では、「4. 削減量予測の積み上げ方法と目標値の設定方法」の表では、「吸収源」すなわち緑化に関するものが「その他」となっており、かつ、一番最後の表記です。人間が生活するという事は必ずCO₂を生みます。CO₂の発生を最小限にすることと同等に、生まれてしまったCO₂をどのように循環(吸収)させるかを実行可能な計画として立案する必要があると考えます。</p>	<p>・新規に植樹を行うことは、土地の確保を伴います。ご意見のあった項目のグリーンチェーン認定物件の多くは民間事業者による開発事業の土地であり、大きな数値目標を設定することは非常に困難です。</p> <p>・今後は、植樹を推進するだけでなく、現在ある樹木や緑地が減少してしまわないように保全していくことが重要になってくると考えています。よって、重要なみどりを見極め、未来に残すことも含めて、植樹の本数について年間700本、2030年までの8年間で5,600本という目標を設定しました。</p> <p>・CO₂削減量の積み上げは大きく分けて「削減策」「吸収源」の2つからなり、重点施策の取り組みに対応する形で、種類の多い削減策を先に記載しています。なお、表中見出しの「その他」は本編15ページに合わせて「緑化による吸収源対策」と表記します。</p>	有	資料編p.24 4.削減量予測の積上げ方法と目標値の設定方法 の表中の見出しを修正 修正前:その他 修正後:緑化による吸収源対策

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	市の考え方	修正の有無	第4期流山市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)ストップ温暖化！流山プラン 修正案
2	本編 p.2	第1章 基本的事項 1.背景と目的	<p>こうした国や県の動きを踏まえ、となっていますが、流山市独自としての気持ちはどうなのかなと思いました。国や県の意向に沿うことはもちろん大切なのだと思いますが、流山市の意見が聞きたいと思いました。「母になるなら流山」と謳って、実際に少子化時代に学校を増やす位に、たくさん子ども達がいる流山だからこそ、この子どもたちの未来を守りたいとか、開発して便利で快適な暮らしを謳歌している自分たちが責任を持って目標を果たして地球や暮らしを守っていくのだという気持ちというか姿勢、決意のようなものが感じられるものであってほしいと思いました。</p> <p>そうじゃないと、変わらない気がするからです。私たちが本気でこの問題について考えて、よほど行動していかない限りは、目標を達成できないと感じます。しかし、私はこのプランを読んで、自分がどこまでどんな風に、どうすれば目標が達成できるのかがわかりませんでした。</p> <p>本編の中に、個人でできることや市民の動向調査結果などが記載されていました。私たち市民ももちろん目標達成に向けておおいに責任がありますので、私もできることから活動しています。こうして意見を書こうと思うのも、その気持ちがあるからです。私ひとりの意見で流山市の政策を変えることはできないでしょうが、これも私のできる精一杯の活動なのです。</p> <p>ですから流山市も、国がとか、県が、じゃなくて流山市がどこまでどうしたいと考えているのか、どれ位の本気度なのか、そのような気持ちが伝わってくるような『ストップ温暖化！流山プラン』であってほしいと強く望みます。</p> <p>そして、努力目標ではなく、実現するために本気で対策してほしいと期待しております。</p> <p>市長様、不慣れなもので、失礼があったら大変申し訳ございません。決して、批判しているわけでもなく、責任を押し付けているつもりもありません。自分も、自分事と思って取り組みたいと思っています。だからこそ、教えてほしいのです。</p> <p>背負うものが大きければ大きいほど、一つ一つの発言すら私たちの想像以上に難しいものがあるのだと思いますが、どうお考えか、そして我々市民はどこまでどうしたらよいのか、どうか『ストップ温暖化！流山プラン』でご教授ください。それについていきたいと考えています。</p>	<p>・人口減少社会を見越して設定された国と同じ削減率を採用することは、今後しばらく人口増が続く流山市にとっては国より高い目標を掲げていることとなります。</p> <p>・「2030年度までに2013年度比46%削減、2050年までに実質ゼロ」のために市民や事業者の皆さんに取り組んでいただきたいことについては、本編の重点施策やその積上げ根拠となっている資料編のページに一例を記載しています。</p> <p>・削減目標達成には、一人ひとりの実践が強く求められており、市民や事業者が協働して取り組みを続けていくことが重要であることから、その旨を「背景と目的」に追記します。</p> <p>・本計画の策定と同時に、本市でも2050年二酸化炭素排出実質ゼロを宣言する予定です。</p>	有	<p>本編p.2 追記： 2030年はすぐそこに迫っています。私たちの現在の行動が、次世代の地球環境を左右することは言うまでもありません。移動だけでなく、衣・食・住といった暮らしを支えるあらゆる製品・サービスは、製造から廃棄までの間に二酸化炭素を生じています。「2030年度までに2013年度比46%削減、2050年までに実質ゼロ」の達成には、一人ひとりが持続可能な脱炭素型ライフスタイルへの転換を着実に実践することが強く求められます。本計画は、気候変動への影響を最小限にしながら、豊かで暮らしやすい脱炭素社会が実現できるよう、ともに考え行動する市民や事業者の指針とするものです。</p>